

製品名: CDK5RAP3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe01580**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | 組換えウサギモノクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,IP |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 0.63mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。 |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50 |
| 分子量 | Calculated MW: 57 kDa; Observed MW: 70 kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | CDK5RAP3 |
| 別名 | C53; IC53; LZAP; HSF-27; MST016; PP1553; OK/SW-cl.114 |
| 遺伝子 ID | 80279 |
| SwissProt ID | Q96JB5 |
| 免疫原 | ヒト CDK5RAP3 の合成ペプチド |

背景

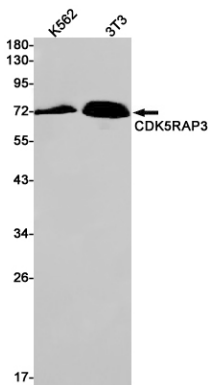
当初、細胞増殖を制御する CDK5R1 相互作用因子として同定された腫瘍抑制因子と考えられる（PubMed:12054757,

PubMed:12737517)。RELA リン酸化の制御を介して NF- κ B を介した遺伝子転写を負に制御する (PubMed:17785205, PubMed:20228063)。また、有糸分裂 G2/M 期移行チェックポイントおよび有糸分裂 G2 期 DNA 損傷チェックポイントも制御する (PubMed:15790566, PubMed:19223857)。CDKN2A/ARF および MDM2 との相互作用を通じて、MDM2 依存性の p53/TP53 のユビキチン化、安定化、および核内活性化を誘導し、G1 期細胞周期の停止と細胞増殖の抑制を促進する可能性がある (PubMed:16173922)。小胞体ストレスに対する複数のタンパク質のウミ化を媒介し、小胞体ストレス応答において役割を果たす可能性がある (PubMed:23152784)。また、アポトーシスにおける核膜破裂にも関与する可能性がある (PubMed:23478299)。PPM1D/WIP1 による脱リン酸化を制御することで、MAPK14 の活性を制御する可能性がある (PubMed:21283629)。

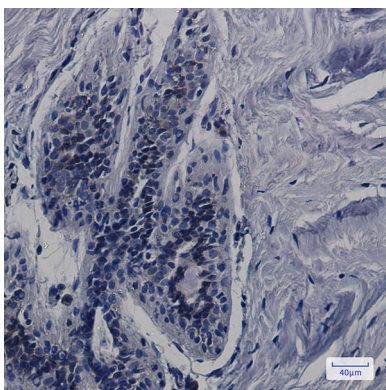
研究分野

細胞生物学

画像データ



CDK5RAP3 抗体を使用した K562、3T3 溶解物中の CDK5RAP3 のウエスタンブロット分析。



CDK5RAP3 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。